



飛 光



—Fay Kwoong—



Vol. 1

c2factory

はじめに

飛光—Fay Kwoong— Vol.1

— — 目 次 — —

ボクサー

24時間TVの件。とくにマラソン。

メディアへの携わり方など。

ガキにはネットを禁ずる、という案。

ダルビッシュをみるたびに思い出す。

賞金首としての人生。

北野武映画について。

「都青少年健全育成条例」改正案について

老いた。

亀田を擁護したいと思う。

ボクサー

「沢木耕太郎氏の全集読みまくり」もそろそろ終盤に入ってまいりました。昨日「深夜特急」を読了、そのまま続けて「一瞬の夏」に入りました。

「一瞬の夏」は、カシアス内藤というボクサーとの「関わり」を綴ったものです。

陳腐な言い方ですが、ある才能あるボクサーの栄光と、限らない挫折の物語、と言えようかと思えます。

この作品を読むのは何度目かになるのですが、今回の読了後フト思い出しました。

むかーし住んでた家の隣がボクシングジムで、そこには、当時小学校低学年だったワタシにとってちょっと怖い感じの「おにいさん」らがたくさんいたこと。

小学生時代。当時私は江東区南部のとあるアパートに住んでたのですが、隣が世界王者を何人も輩出してる高名なボクシングジムでした。

・・・隠すような話ではなからうと思うので書きちゃいますが、それは三迫ジムというジムで、当時は世界王者の輪島選手、東洋王者の門田選手といった選手が「看板」だった・・・はずです。

「はず」というのは、当時ワタシはなにしろ小学校低学年、いや、幼稚園だったかな？とにかくそういう年代で、有名な選手がたくさんいるということはわかってたものの、それがボクシング業界的にどんなレベルだったのかまではわかってませんでした。

しかし、時折テレビの取材や、タレントなんかも来たりしてたので、輪島さんや門田さんは有名なんだな、くらいは理解してたような気がします。

そういうトップレベルの選手がいたこともあってか、ジムには若いボクサーたちが大勢いました。

ジムの中は極めて暗く、なんかオツカないオヤジの写真の額が飾ってあったりしまして（今考えるとそれは三迫会長の師匠であるライオン野口の写真だったのかもしれない）、とてもワタシのようなガキがオイソレと近づける雰囲気ではなかったのを覚えてます。

誰もいない時などにコソソリ中をのぞいたりすると、ジム内はトンでもなく汗臭く、なおさら近寄り難かったように記憶しております。

薄暗いは臭いはで、ジム周辺にはあまり近づく事も無かったのですが、唯一比較的気楽に近寄れるところがありまして、そこはどこかという、ジムの裏になぜかあった、大きなハト小屋。

子供が3、4人入れるくらいの本格的なもので、整然とエサ箱などがレイアウトされ、ハトが10羽くらい飼われてたように思います。

金網越しに、よくボーッとハトを眺めてたりしたもんです。

このハト小屋の管理人(?)は、ジムの中でもとりわけ若いボクサーで、ジム内でもかなり期待されてる選手だったそうです。

前出の門田選手、たまに我が家にチケット売りに来てたりしたらしいんですが、そのたびに

“こいつは強くなります。宜しくお願いします”

と言ってったらしい。

あれから30年も経ったというのに、我が実家の面々がこういうことをしっかり覚えてるといのは、それがよっぽど熱っぽかったからに相違ありません。

門田選手と、このハト小屋管理人選手、どちらもいわゆる「みなしご」だったそうで、ハト小屋選手は故郷からポストンバッグひとつで上京し、そのまま住み込みで練習してる、とのことでした。

ご本人は非常に無口で、普段はなんとなく影が薄いというか、地味で、色白かつヒョロヒョロな感じの青年でした。天涯孤独で、10歳台で単身上京し、ボクシングに賭けてる若者・・・いわゆるハングリーボクサーの見本みたいな選手だったようです。

夕方、ひとり、小屋の掃除なんかしているこの選手の姿を何度か見かけました。

ずいぶん長い事このハト小屋は稼動してたのですが、ワタシの学年が増えるにつれて少しづつ寂れ、いつのまにか小屋内はカラッポになり、やがて小屋そのものもいつのまにか無くなってしまいました。

管理人だったその若いボクサーも、やはりいつのまにかその姿を見なくなりました。

そして、ジムもどこかへ引っ越していきました。

さらに我が家も引っ越しまして、その結果、ジムや、選手達、あのハト小屋も、ワタシを含めたホンの数名の記憶の中にのみその存在の痕跡を残している、というのが現況です。

あの管理人のボクサーは、「竹森三城」というリングネームでした。

当時のボクシングマガジンなどをひもときますと、かなり・・・世界王座までもの期待をされてた選手だったみたいです。

ヒョロヒョロで地味な印象しか無いのですが、ファイトスタイルは典型的なブルファイターだったそうで、ちょっと意外な感じがします。

もう50歳代の、いいオッチャンになっておられると思うのですが、どうされているのでしょうか。

(2004年12月 3日 00:08)

※この記事の公開後、御親族の方からメールを頂きました。詳細は割愛しますがお元気にされてる由でした。

近況の写真などまでお送り頂いたのですが、受信後PCトラブル等あり、100%こちらの責任で音信不通になってしまいました。大変申し訳なく、また後悔の念しきりです。

24時間TVの件。とくにマラソン。

想像通り今年も、やれ偽善だとか企画がつまらんとか出演者のギャラがどうだとかアレコレ言われてるようですが、なにしろ「やらない善よりやる偽善」です。そもそもナンダカンだ言われつつ平均で約16%、最高で35%の視聴率という数字を叩き出してる以上、コンセンサスはこの「やる偽善」の側にあります。それは否めない事実です。今回も取り急ぎ2億円だかの浄財が集まった由。それだけの集金がこの「24時間テレビ」以外に出来るか、って話ですね。

ただねえ、この番組中の「マラソン」の企画、これはセコい。意義云々以前に、企画としてあまりに陳腐ですよやっぱし。

24時間テレビのいわば「象徴」として、その時間中ぶっ続けで行われる企画、果たしてそれが「マラソン」でいいのか？とってしまう次第です。

24時間（実際はそれ以上）に渡る番組そのものには「チャリティ」という統一テーマが設定され、全てのコンテンツがそれに則って制作されてるにも関わらず、事実上主軸企画となっているこの「マラソン」にだけそれがないんですよ。マラソンという行為そのものには「チャリティ」の意味がどこにも存在しないわけですね。

っていうか、そもそもこのマラソンには、「チャリティ」云々の話以前に、そもそもなんの必然性も無いですよ。なんかいつのまにか風物詩的に定着してしまってますが、考えたら「いきなりマラソン」なんです。そういやなんでマラソンなの？、と問われたら、どう考えても後付けの理由しか出てこないでしょう。

24時間ブツ続けでなにかを行って、その結果（チャリティ的な）〇〇が生まれる・できあがる、みたいな次第ならいいんですけどね。その方が目論見としての「ゴール＝完結時の感動」が生きる…より感情移入できるものになると思う。なにしろ…"目論見としての「ゴール＝完結時の感動」"と書きましたが、そのための方策として考え出された企画が「マラソン」ってのは、あまりにも安直なんじゃないかと思う。ベタベタというかね。

もうひとつ。

法的な義務はどうか知らないけども、日本テレビは、これはやはり収支を明らかにしなきゃいけません。大メディアとしてそれは必須だろうと思います。

募金で領収書を要求するヤツはおらんで、その辺は日本テレビ側のいわば良心に委ねられるわけですが、ここのところはどうなってんだろうか。ある程度はサイトなんかで公表されてるみたいですが、なにしろ2億オーバーですからね。カッコリやって頂きたい。

最後に繰り返しますが、「やらない善よりやる偽善」。

チャリティの名の下に24時間で2億集めるってのは、これはやっぱスゴいことですよ。政治家だって一晩で2億集めるのは至難でしょう。

またそういう意味で、TVメディアってのはダメだダメだと言われながら、まだまだ死んではいませんなあ、と思います。その是非はともかく。

(2010年8月31日 02:34)

※24時間テレビでの「マラソン」企画については、いまでも「セコいなあ」と思っておりますが、マラソン企画スタート以来、それ以前より視聴率は格段上昇している由。

だとすると、セコいと思ってるオレみたいなのは少数派なのかもしれません。

メディアへの携わり方など。

先日いわゆる「ギョーカイ」（この言い方も古いなあ。でもまだいるんだよなあ臆面も無くこう自称して憚らない人）の方のご意見を聞く機会があったのですが、その中でどうにも引かなかったことがひとつ。

いわく、

"AD（アシスタントディレクター）として一番大事なことは、バカであること、それも愛されるバカであること"
とのこと。

この方はどうやら何らかの形でTV番組制作に携わってるらしいのですが、オレ的な結論から言うと、臆面もなくこんなこと言ってるヤツがいるから最近のTVはダメダメなんだな、と。

「メディア」というものを"不特定多数に対して何らかの（広い意味での）情報を発信するもの"と仮に定義するなら、そのコンテンツの制作者として最も相応しくないのが「バカ」だと思うんですが、どーなんでしょうかね。

"愛されるバカ"として優秀なADに成りえた人が、やがでディレクターとしてメディアを通じてナニゴトかを不特定多数に発信している…場合によっては、これはちょっと怖いことです。

オレ的には"愛されるバカ"が作ったものなんか観たくないし、"愛されるバカであれ！"とか言ってるヤツが跋扈しているTVにはなんの魅力も感じません。

・・・ただ、現実的に、現状ではちょっとバカなくらいでなきゃあの過酷な現場には耐えられない、ってことも言えるかもしれません。

小津は、マトモなレベルで創作し続けられないという理由から、決して1日8時間以上は撮影を行わなかったそうですが、今の、特にTV番組製作現場において、その論理は通用しないらしいです。

しかし「愛されるバカ」とは…創作者は本来殊更に愛される必要など無いと思うのですが。

営業マンならばこれは愛されなきゃダメで、そのために時には「バカ」にならなきゃならない状況もあったりするでしょうが、純粹に「創作」という側面において、この辺は無意味というか、場合によってはジャマになったりするんじゃないか。

ここでふと我が身を振り返る。

オレは確かに映像etcを作って・売って、それで喰ってるわけですが、実際的には営業マンとしての側面も多くあるので、時には"愛されるバカでなければいかんなあ"とか思うこともあります。

しかし、撮影にしる演出にしる編集にしる、モノを作ってるときにそんなことは全く持って二の次になるし、それでなんの問題も無いです。

バカって言えば、TV番組ってのは、バカでも理解出来るように作る、ってのが基本スタンスだそうです。

まあこれは考えたら当然で、TV局が営利目的である以上、老若男女誰でもが楽しめるように作らないと＝とにかくより多くの人に楽しんで・支持してもらわないと成り立たないわけですからね。

利口な番組はバカにはわかんないけども、バカな番組は（面白いかどうかはともかく）利口にも理解は出来ますから。ただ、バカが考えるバカ像ってのは確実にそいつよりさらにバカなわけなので、どうしたってバカが作る番組は、これはもう思いっきりバカバカしくなるに決まっています。

で、まだなににも染まってないマッサラな子供がそういうバカ番組を観て、そのまま育ったとしたら、これは即ちバカが

考えるバカ像=moreバカが標準になっちゃいかねない、と。

マッサラな子供たちは、この「moreバカ」的な世界観を、ああそういうもんなんだな、とかいって素直に受け取っちゃうでしょうから。

かくして…大宅壮一じゃ無いですが、「一億総白痴化」が達成されちゃうわけですね。

むかしにblogで、16歳未満はネット禁止にしたらどうか、とか書いた事がありますがこの際、TVも16歳…いや20歳くらいまで禁止にしたらどーですかね。いやホントに。

(2009年4月12日 01:26)

改めて読み返して、当時のオレはなんでこんなことに怒ってたんだろうか、と思います。

つまりは、当時はまだTVに期待するところが大きかったんだな結局。そういう意味で懐かしい記事です。

ガキにはネットを禁ずる、という案。

今日「も」こんな事件があったらしいです。以下のソースはサンスポですが、おそらくはどの新聞にも出てる事件です。

【社会】「小さい子に触りたかった」小3女兒に抱きつき男逮捕

香川県警坂出署は28日、小学3年の女兒（9）に抱きついたとして香川県迷惑防止条例違反（みだらな行為の禁止）の疑いで、同県〇〇町、アルバイト〇〇〇〇容疑者（23）を逮捕した。

調べでは、同容疑者は24日午後1時半ごろ、同県坂出市内のスーパーで、友達といた女兒に「記念写真を撮ろう」と声を掛け、後ろから抱きつくなどした疑い。

〇〇容疑者は「小さい子に触りたかった」と容疑を認めているという。同署は同様の余罪があるともみて調べている。

武士の情けで（？）氏名、住所は伏せましたが、このオトコ名前でもってgoogle等で検索すると、こいつによるあちこちのBBSへの書き込みがワンサカ出てきます。

そのいずれも主に小中学生が集う、というか、じゃれあうというか、馴れ合ってる類のBBSで、こいつは時には大人のオトコとして、また時には小学生と偽称して、馴れ合い・じゃれあいの書き込みをモノしてたりします。

場合によっては「友達になってね!」とか、場合によっては「エッチ友達募集!」とかいう感じだったりして、ありていに言ってまあキモいことこの上ない。

で、あろうことかこれらのBBSのいくつかでは、この男、多少キモがられつつも、ある種の形で肯定されて受け入れられてたりもしてたようで、これはまた恐ろしいことこの上ない。

こういう真性かつ悪性のロリコン氏のことはおいといて、少々ビックリしたのは、こういうBBSやチャットに書き込んでる子らについてでした。

彼ら彼女らは、こういう真性悪性ロリ属性男も、ホン」のはずみで受け入れちゃったりするんです。

あまりにも無防備・・・危なっかしいことこの上ない。

なにしろ「この上ない」ことばかりの今件なのであります。

そこで思った。

16歳未満は、インターネットアクセス禁止にしたらどうか、と。

何によらず物事には功罪、メリット・デメリットがありますが、16歳未満の子供にとって「インターネット」という媒体はデメリットばかりです。

ネットのメリットってなんだ？と考えるに、例えばオンデマンドによる簡便・迅速な情報収集、地域格差の是正・・・ああ、こういう「メリット」は、もっと大人になってから享受するんで充分です。

子供にとっては、この対価としてのデメリットがデカすぎる、と。

■理由その1。

子供ってのは背伸びしたがるもんです。

各プロバイダ、ポータルサイトでは、子供向けのサービスをあれこれ展開してるようですが、例えば小学生は「小学生向

けサイト」だけで満足するわけないです。

もっと「大人のものを」、もっと刺激的なものを、という方向に向かうのが正常なガキ像です。

最初は「Yahoo!きっず」とかで楽しんでても、すこしづつ、よりアングラな、またより「大人向け」なサイトetcに進んで行く...子供ってのはそういうもんでしょう。

オレがガキの頃にネットなんて無くてよかったな～、と思います。

中学くらいの頃に、フリーで使えるPCがあって、常時接続のネット環境があったら、例えば、まず間違いなくエロ画像見まくりです。

で、サイト運営者の口車にあえなく乗って、出会い系サイトの2、3には登録したかもしれない。

(そーいや小学校の「パソコン室」って、学校によっては休み時間中に入出入り自由、接続自由だったりするんですけどね。狼の群に羊を放つようなもんだ。好奇心の強い子は検索制限なんて破るの簡単ですよ)

...なにしろ、ネット上には、子供に見せるべきでないものが溢れてます。

それはエロや「出会い系」云々に限らず、「子供がちゃんとした大人になるために必要なものを否定し、奪うもの」...こういう類のもの全てです。

で、それらが、近来にないレベルの容易さで手に入り、また触れることができる・・・これが現実です。

■理由その2。

もうずいぶん昔のことのように思えちゃうのが恐ろしいですが、ちょっと前に、長崎は佐世保の女子小学生が同級生（というか友達）をナイフで殺しちゃった、という事件がありました。

聞くと、この子もネット上で人間関係トラブルがなんらかの原因になってる、とのこと。

掲示板で悪口書いたとか、HP荒らした・荒らしてない、みたいなことだったようですが、ある意味...殺すまで行くかどうかは別にして、子供がバーチャルな人間関係でもってトラブルのは必然です。

まっとうな自我・人格形成の出来てない子も、ネット上では、リッパな一人前の人間として、その場を与えられ、一人前の人間として発言する機会があたえられちゃう。

・・・そりゃトラブるっての。

ハムだとかの、いわゆるメディアアマチュアによる不特定に対する「通信」は、元来免許制・・・その資格のあるものだけに許されてたことだったはずです。

それが、ハムだとかの数十倍の情報のやりとりが可能な「ネット」に、なんの資格制限もない...いわば完全フリーであるってのは、あまりにも危険だと思うのです。

子供がネットする時は必ず大人もそばに付く、とか、そういう水際で防ぐ事もアリでしょうが、その肝心な大人で、ネット社会にある程度精通してるってレベルの人が、残念ながらまだ圧倒的に少ない。・・・こりゃアテになりません。

一回パンドラの箱を開けたら、もう閉めらんないです。

その中身を、キチント受け止め、時にはサラリと流せられるだけの人格形成が出来るまで、ネットなどさせないのが賢明だと思うんです。

だから、16歳未満はネット禁止。

(2004年11月28日 23:42)

※10年ほど前に勢いにまかせて書いたもので、読み返すと推敲の余地有りまくりの駄文ではありますが（ってまあ全部そうなんですが）、基本的なところでオレにブレは無いなあ、と再確認しました。

ダルビッシュをみるたびに思い出す。

本日、2009年NPB日本シリーズ第二戦、巨人VS日本ハムが行われておりました。

我が中日ドラゴンズはCSで敗退。この日本シリーズへの進出は適いませんでした。

なのでオレもこの日本シリーズ、シーズン中のような楽しいストレスを感じることもなく、ひたすら淡々と眺めております。

っていうか、正確には眺めてさえもありませんで、殆どNPBへの義理立てのような気分で、その結果だけ気にしてるといった按配です。

ただ、今日は観たかった。観戦したかった。

今日中に上げなきゃならない編集案件があったので結局観られなかったのですが、なぜどうしても観なきゃならないと考えたかという、これはひとえに「ダルビッシュが出るかも」だったからです。

野球ファン、とりわけNPBファンは、彼が引退若しくは一線を退くその前に、一戦でも、また一級でも多く彼の姿を己がマナコに焼き付けておかなければいけません。

オレ的にはこれはもはや義務ではなからうか、と思います。っていうかそーだろ？え？という感じ。

ところで、ダルビッシュを観る度に思い出す選手がいます。

中日ドラゴンズの今中投手と、ヤクルトスワローズの伊東智仁投手です。

今中は、左腕から繰り出すシャレにならないキレキレのストレートと、トンでもなく落差及び速度差の激しいカーブとを武器に、一時期のドラゴンズを背負った、紛う方無きエースでした。

伊東は、物理学上有り得ないのでは？と思えるレベルの高速スライダーで、もはや伝説になっている投手です。

いずれも、やや線の細さ…っていうか、体の細さがあり、その酷使のされ方から当初より故障が心配されていました。

で、その通り両者とも、肩若しくは肘の故障で短い全盛期を終えたのでした。

今のダルビッシュの活躍ぶりは、この2投手に勝るとも劣らないものです。

で、体の細さもなんとなく似通ってる気がするのです。してなりません。

今シーズンも、ダルビッシュは結構な数の登板回数だったはず。

どうか故障などせぬよう願うばかりです。

正に今この時期、彼は臀部痛などでしばらく戦線離脱していた由。

しかしこのシリーズ第二戦、故障を押して「気迫の投球」を見せ、シリーズ1勝1敗のタイに持っていったとのこと。

肩や肘ではなかったということでちょっと安心かもしれませんが、患部を気にして投球するあまり、余分な負担が肩肘にかかり、最終的に致命的故障、なんてこともよくある話です。

どうか、どうか故障などせぬよう、切に願います。

(2009年11月 1日 23:10)

※この当時は、まだプロ野球を観ていた・観る気持ちが残っていましたが、今はもう無くなりました。
その後のダルビッシュの活躍はご存じの通り。

賞金首としての人生。

市橋容疑者に関するアレコレで喧しい昨今。こういった日本中の耳目を集める話題がある時には、往々にしてその影でなんかしらトンでもないことが行われていたりします。折しも国会会期中。市橋に気を取られてると、わけわからんコトが知らん間に決まっちゃったりするので、注意しなければいけません。

さて市橋ですが、西成にしばらく潜伏してた由。

西成の飯場に1年もいるくらいなら刑務所の方がマシなんじゃないかと思えるのですが、前科のある市橋としてはそういう選択肢はナンだったようです。

そんなに刑務所ってのはキツイところなんだろう。そういえば田代まさしも出所後まもなくに“刑務所は地獄だった”と言ってましたね。

しかし、この報道によって、彼はもう西成には戻れません。

山谷しかり、全国のいわゆる「ドヤ街」に潜伏することはこれでかなり困難になりました。オレがこのような駄文をモノしてる正にこの時、市橋はどこかで同じ夜を過ごしてるわけです。どんな気持ちでいるんでしょうかね。

1000万円の賞金首である彼。もはや日本国民全員が彼の「敵」です。あの日、あの白人女性にあんなことさえしなければ、こんなことにならなかったのになあ。

このまま・・・・・・逃亡者のままで彼が天寿をまっとうできるとは思えません。どこかで野垂れ死にするか、刑務所行きとなる、彼の行く末に明るさは微塵もありません。天網恢恢祖にしてみらさず、です。で、恐らくそのことは彼もある程度理解しているはず。

そんな状況で迎える夜は…どんな感じなんでしょうかね。オレだったら耐えられないね。

(2009年11月10日 02:47)

※2009年秋、久方ぶりに市橋某容疑者の新情報が出た際に行ったものです。その後程なくして彼は逮捕され、現在法の裁きを受けている真っ最中の由。

北野武映画について。

いわゆる北野映画の「黄金期」は「キッズ・リターン」くらいのところで既に終わってます。少なくともオレはそう思う。

ただ、その際「残念ながら」というような枕詞は似つかわしくありません。

北野武監督（以下「タケちゃん」）は、もう好きなように、作りたい映画を作りたいように作ってくれればいいんです。正にそれであるが故に「菊次郎の夏」だとか「監督、ばんざい！」などは感動的でした。だからある意味結果論ではありますが、このことはこれっぽっちも「残念」ではない。

いわば他人のオナニーに付き合う快感、というところかもしれません。で、それを変態というならそうなのかもしれませんが、小説にしる舞台演劇にしる映画にしる、要は他人のウソ話に付き合って泣いたり笑ったりしてるわけで、考えてみればこういうのは押しなべて変態の所業、己が変態的神経への刺激で快感を得てるのに他ならない、と考える次第です。

作る方にしても、言いたいことをわざわざ別媒体でもって表現しようなんていう屈折した指向というか嗜好は、これはもはや紛う方無き変態です。

作る方も観る方も変態なのだから、この際オナニーくらいでどうのこうの言っても始まらないのでありますよ。

きっと今度の作品も、タケちゃんは自らの望むところに忠実に従って撮り、繋ぎ、し、その結果として恐らく国内興行成績は例によって惨憺たる有様で、それ故タケちゃんは資金捻出・補填のためにまたアホみたいなTV番組にシコシコと出張る羽目になるんだらうと思う。

そうまでして「勝ち得た」オナニーであるので、この作品もきっと前出の「菊次郎…」や「監督…」若しくは「アキレス…」と同様同種の感動をもたらしてくれることでしょう。

賭す事柄の重い・大きいオナニーは美しいですよ。神聖なんです。…多分ですけど。

同時に、恐らく「HANA-BI」くらいから、意識してオナニーに邁進しているタケちゃんに、オレとしては大向こうから声を掛けてあげたいと思います。

「ナイス！」つつってね。

(2010年5月18日 14:37)

「都青少年健全育成条例」改正案について

以前にも書いたことがあります。ああいう愚にもつかない下品なエロマンガを「お上」がいつまでも放置してるわけねーだろ！と常々思っておりましたよ。あんなものを堂々と創り且つ売り続けてたら、そりゃいつかこういう規制が入るに決まっています。「お上」ってのはそういうもので、別の言い方をすればいつの世もこういう規制をすることこそが「お上」のお仕事です。

この業界の人たちはそんなことがどうしてわからなかったんだろうか。なんでまたここまで無策に、されるがままになってしまってるんだろうか。不思議でなりません。アホか、と。

AV業界などは、そこんところ上手いことやっていますよ。業者間で「監視団体」を作り上げ、セッセと天下りを受け入れ、と、その功罪や善悪は置いといて、とにかく業界存続のために長年シコシコと努力？しております。その結果、今回の規制対象のマンガ類など比較にならないレベルでロクでもない内容であるにも関わらず、たまーにある意味生贄としてパクられる業者が出るくらいで収まっています。

※念の為繰り返しますが、あくまでも「その功罪や善悪は置いといて」の話です。

こういう努力をこの業界はどこまで行い、果たしていたんだろうか。ある種のタブーであるが故にこの手のコンテンツは確実に「売れる」わけですが、要するにこの業界の人たちは、そういう目先の利益におぼれ、ホンのちょっとだけ想像力を働かせればわかったであろうこういう結末さえ予測できなかった、というわけでしょう。自業自得っちゃその通りですが、これまた当然ながら「規制」されたらその分世の中を巡りめぐるお金も減るのが当然なわけで、そういう意味でもはや自業自得なんて話じゃ収まらなくなっちゃったねえ、ってのが今回のニュースの主旨（のひとつ）なわけですね。

とにかくですね、今になって「大反対」なんかしてもしょうがないです。

ただただ、一部のアホンダラのお陰でワリを食っちゃう、マトモなコンテンツ制作者（業者）がアワレでなりません。ってよく考えたらウチも他人事じゃねーじゃんか！というね。

(2010年12月19日 22:16)

老いた。

高校の頃にはまだ回転ずしは一般的じゃ無かったような気がするのですが、たぶん大学生時代だったと思うのですが、当時オレは「回転ずし」に対してある種のこだわりを持っておりました。

即ち、何はさておいても、まずは16皿食べる。

でもって、16皿完食した時点での体調で、そのあとどれだけ食べるか決める、というものです。

言い換えると、要するに16皿食ってからがホントの食い始め・スタートだった、とという感じです。

ああ、もう16皿食ったか。じゃあカウント開始するか、みたいな。

さらにさらに言うと、まず16皿食わないと空腹にさえならない、と言った方が適切かもしれません。16皿食って初めて一般的な空腹状態になる、という。

なんで16皿なのかは、なんか理由があった気がするのですが覚えてません。なんかしらんけど16皿がとにかく基準だった。

これは余談ですが、あの当時のオレは思うに食欲異常というやつで、これは高校時代ですが部活のあとなんかにグラウンドそばの菓子店でまず1.5リットルのコーラをイッキ飲み、その後みんなでラーメン+餃子+チャーハン食べて、解散したあと同じ帰り方向のヤツらと一緒に牛丼屋行ったりしてました。

なんかハラヘらね？とか言って。

こういう傾向は大学時代もほぼ同様で、朝メシ食って家を出て、1限終わったらコンビニでオニギリ食って、昼メシは学食でカレー食って、その日の授業が終わったら向かいのゲーセンの隣のラーメン屋でなんか食って、帰りに池袋でファーストフード系を食って、帰宅してからタメシ食う、という。これがほぼ毎日だったからね。

・・・それはともかく、こないだ久方ぶりにスシロー行ったんです。

気の向くままに皿を取って、食って、ああ食ったなあ、ハラいっぱいだ、となったところで皿の数を数えてみたら、16皿だった。

なにが言いたいかというと、オレは老いた、衰えた、もう昔のように食えないのだ、ということです。

昔だったらここからが本番だったのになあ、と目の前の16皿を見ながらさびしくひとりごちるのでありましたとき。

(2013年5月21日 23:50)

亀田を擁護したいと思う。

改めてネットを徘徊するに、なんか亀田がやたら叩かれてるので、あえてちょっと擁護してあげようと思う。

まず、対戦相手の質が云々ってポイントですが、これはまあ確かに高くは無いです。対戦相手選びの巧みさは称賛に値するものです。

でもそもそもプロボクシングの世界戦というのは、基本的に対戦相手の選択権は王者側にあるのです。それどころか試合開催国・会場、さらにレフェリー・ジャッジも王者側に選定の権利があります。

こんな非常識なことがまかり通ってるプロスポーツ業界などボクシングぐらいでしょう。つまり、亀田を対戦相手云々で叩くのであれば、プロボクシング業界を叩くべし、です。

また、確かに亀田の防衛戦の相手は微妙なメンツばかりですが、こういうことやってるのが亀田だけかっっていえば決してそんなことは無く、有名などころではモハメド・アリ。彼がベトナム兵役拒否のペナルティが切れて世界王座にカムバックした後の8度の防衛戦の相手など、昨今の亀田以下です。マジでどっかの酒場の用心棒を無理やり連れてきてやらせたりしてる感じでした。みんながみんなじゃないけども、そりゃもうヒドい相手ばかりだった。

要するに、亀田的な事柄ってのは、プロボクシング界には極めてありがちなことなのですよ。アリでさえそういう傾向があるくらいですから。

それにしても、亀田陣営の対戦相手選びは見事！です。決してハードパンチャーでなく、さほどフットワークが無く、少しだけ打たれ弱さがあって、あまり連打の出来ない相手。全部このフルイに引っかかった相手ばかりです。こういうのをよく見つけてくるなあ、と思います。一戦や二戦じゃないから、こりゃタイヘンな仕事ですよマジで。

そして、戦いっぷりがつまらない、みたいな話ですが、それは彼のファイトスタイルなんだからしょうがない。殊更パンチ力があるわけでもなく、といって巧妙な連打ができるわけでもなく、さらに秀でたディフェンス力も持ち合わせないわけなので、勝つためにはああいうスタイルにせざるを得ないです。で、それは非難されるべきことじゃありません。

オレはもう30年以上プロボクシングを観てますが、亀田なんかマシな方です。今までも、オマエ(ら)はいったいなんなんだ???っていう世界戦、王者、挑戦者はいっっぱいいました。イラリオ・サパタに手も足も出ず完封された友利正とか、亀田と同じバンタム級で、六車卓也と世界王座決定戦をやったアサエル・モランとか、TV解説者に「こりゃダメですね」とハッキリ言われたVS. ガメス戦の横沢健二とかね。オレが実際観た分だけでも枚挙に暇がありません。

(ちなみにこのガメスvs.横沢戦はホントにヒドい試合で、この試合でコリたフジテレビは以降30年近くボクシング中継を打ち切ってた、という。そういや上に挙げた3試合は全部フジテレビだったな)

こういうのに比べたら、亀田は一応勝ってるので、叩いたら可哀相です。

ああ、あと、判定がおかしい、亀田が負けてたんじゃないか?なんて話が試合のたびに出てきますが、これはまあハッキリ言っておかしい時もありました。その最たるものが2009年の内藤大助戦で、これは亀田の4~6ポイント勝ちでしたが、これはムチャクチャでした。近代ボクシングの採点基準に照らせば明らかに内藤の勝ちです。試合後の「勝者、亀田！」ってコールを聞いて、オレはズッコけました。おいおい、って。

・・・でも、この試合以外は、得点差はともかく、いずれも亀田の勝ちでOKな感じですよ。そういう戦い方をしましたからね。即ち、あわよくばKOも狙うけど、基本線としては小差判定勝ち狙い、という。

最後に、こんだけ業界内外から叩かれまくってるにも関わらず、亀田は腐らずちゃんと練習をこなしている。じゃなきゃあの体は保てません。これは称賛すべきことですよ。

普通イヤんなっちゃうよ、こんなボロカス言われたら。

(2013年7月26日 15:45)

飛光－Fay Kwoong－

<http://p.booklog.jp/book/77546>

株式会社C&Cファクトリー社長が、会社設立前からつらつら書き連ねていたブログから抜粋したものです。

タイトルは、沢木耕太郎氏が香港に赴いた際の「出来事」に由来しています。

一人称は「オレ」です。

著 者

c2factory

著者プロフィール

<http://www.c2-factory.com/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/77546>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/77546>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ